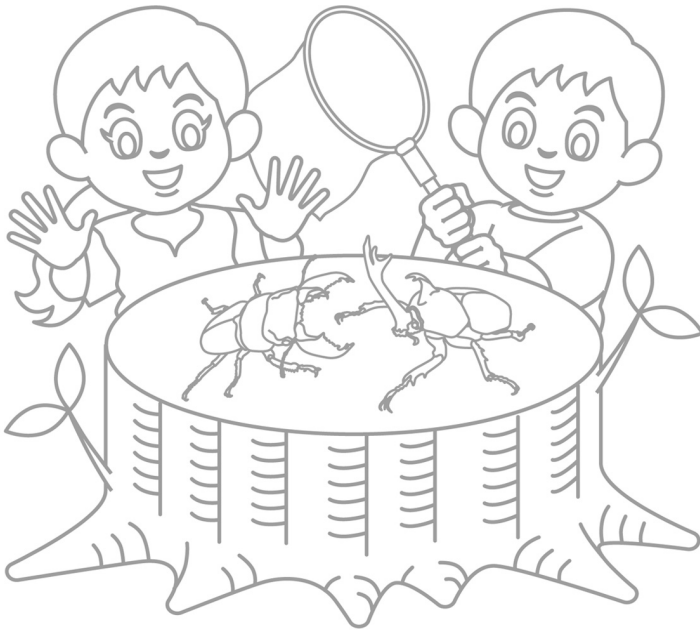


書写のきほんを学ぼう

【第5回】

ひらがなの書き方(4)字形

千葉大学教授 樋口 咲子

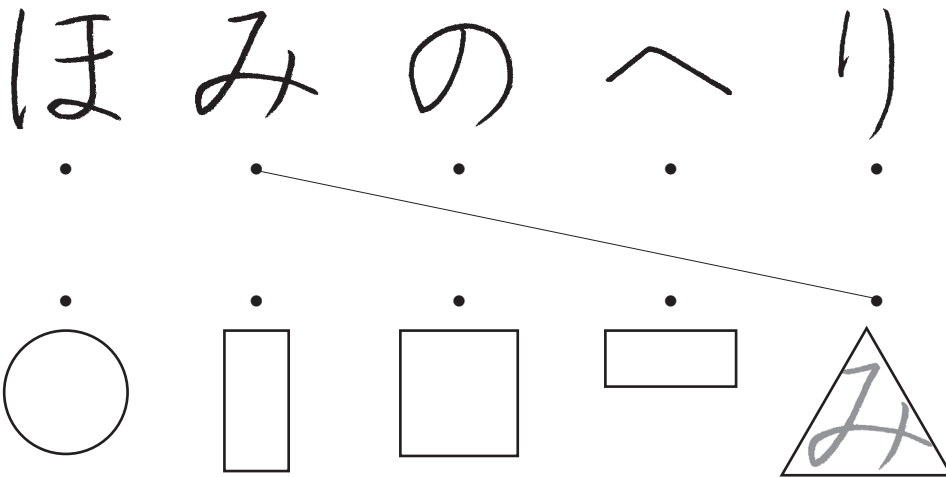


今月のもくひょう

今月は、ひらがなの字形のととのえ方について学んでいくよ。
線の長さや方向、書きはじめるばしょに気をつけよう。線と線がまじわるばしょにも気をつけよう。
小さく書けばあいの書き方がまじりにしても知そう。

① どのはこに入るか

うえのだんのひらがなが、ぴったり入るはこは、どんな形かな。線でむすんでみましよう。



文字が入るはこの形がちがうと、よみにくかったり、ちがう文字にまちがわれてしまうことがあります。書きはじめるばしょに気をつけましょう。

② 線の方向や長さ

線の方向や長さがちがうと、はこの形がかわってしまいます。

線の方向がちがうと、ほかの文字にまちがわれてしまうことがあります。

にている書き方の線の長さに気をつけましょう。

けのはじめのたて線だけみじかいね。

③ にている形のひらがな

にている部分は同じように書くと、文字をたくさん書いて文になったとき、ぜんたいにまとまりがあつてきれいに見えます。にているひらがなを集めてみました。気をつけるところをたしかめましょう。

ながいね みじかいね

あけよう

ここは立たせてあげよう

④ まじわるばしょ

まじわるまでの線の長さが短いと、よみにくくなります。



まじわるいちに気をつけましょう。
中しんてまじわる

あ ち か
さ き ま
す ゆ お
た け は

右よりのびてまじわる

⑤ ッや○の書き方

書き順や書くいちに気をつけましょう。

文字にちかい方から
ななめにずらして書きます。

文字にちかい下の方
から書きはじめて、小
さくまるを書きます。



どこがおかしいのかな。

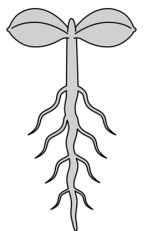
ハはななめにずらして書くこと。

じ

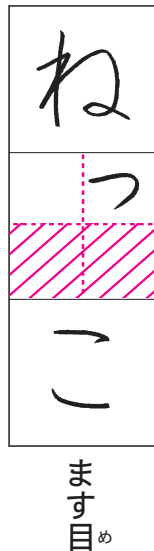
ハは文字の右上に書くよ。

⑥ 小かく書くこと

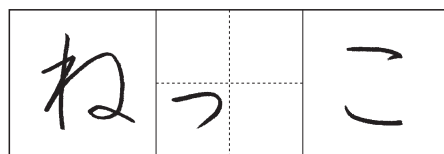
ねっこの小さいつを書くときは、文字の大きさと書くいちがきまっているので気をつけましょう。



このように、まず目に書くときは、まず目の右
上に書きます。
けい線や白紙に書くときは、まず目とちがって
少し上につまります。



《よこ書き》



⑦、や。や「」の書き方

小さく書くときと同じように、まず目とけい線と白紙では、はばのとり方がちがいます。

まず目

わたしは、はい。と、こたえました。

けい線

わたしは、「はい」と、こたえました。

白紙

わたしは、「はい」と、こたえました。

指導のワンポイント

Q 子どもが、最後に書く線をすべて払ってしまいます。どんなときに止めて、どんなときに払うのか、

どうしたらわかりやすく説明できますか。

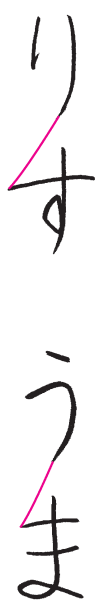
A 戦後、横書きが一般的な書き方になりましたが、日本語は長い間「縦書き」を中心に書かれてきました。そのため、文字から文字へと書き進めていくときに、縦方向に移動しやすい運筆がなされてきました。

平仮名の書き始めは、左上から書くことが多くなっています。これに対し、文字の書き終わりは、右下か右または右下へ向かいます。

書き終わりが左下へ向かう 書き終わりが右または右下へ向かう



平仮名の最終画が左下へ向かうときは、払います。そのままの文字の二画目に移動しやすいようにするた



また、平仮名の最終画が右下へ向かうときは、止まります。止まった反動で、次の文字の二画目に移動しやすくするためです。



おおよそ、このようなルールで平仮名の止め・払いを理解しておくとういでしょう。最初からこまかく指導すると、学習意欲を低下させてしまうこともあるので、子どもの様子を見ながら、少しずつ指導してみてください。